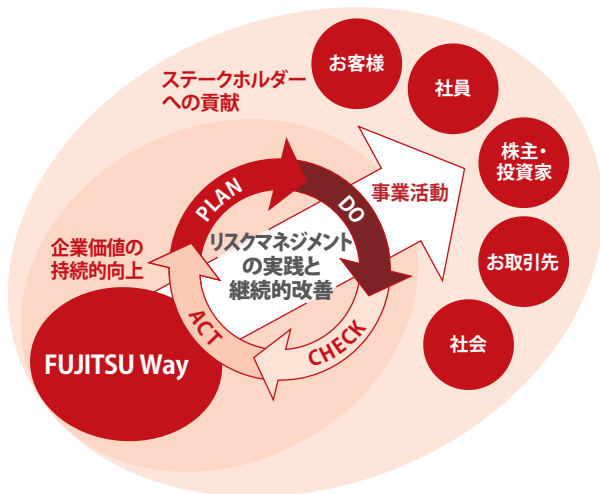


リスクマネジメント

さまざまなリスクについて、未然防止および発生時の最小化に向けた活動を推進しグループ全体でのリスクマネジメント体制の強化を図っています。

富士通グループは、グローバルなICT事業活動を通じて、企業価値を持続的に向上し、お客様や地域社会をはじめすべてのステークホルダーの皆様に貢献することをめざしています。この目的の達成に影響を及ぼすリスクを適切に把握し、対応することを経営における重要な課題と位置づけ、FUJITSU Wayに基づくグループ全体のリスクマネジメント体制を構築し、その実践と継続的改善を行っています。



事業活動に伴うリスク

富士通グループは、事業活動に伴うリスクを抽出・分析・評価した上で、影響の回避や軽減を図る対策に努めるとともに、万一発生した際には迅速に対応するよう努めています。

事業活動に伴うリスクの例

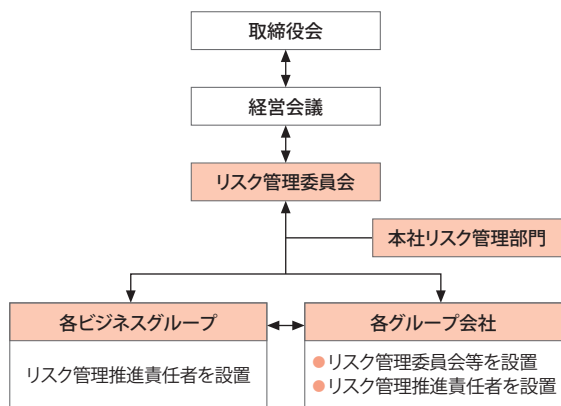
- 経済や金融市場の動向
- お客様におけるICT投資動向変化、お客様との関係継続
- 競合他社や業界の動向
- 調達、提携、アライアンス、技術供与
- 公的規制、政策、税務
- 製品やサービスの欠陥や瑕疵、情報セキュリティ、プロジェクト管理、投資判断、知的財産、人材、環境、信用リスク等
- 自然災害や突発的事象

※ これらは事業活動に伴うリスクの一部です。詳細は、決算短信、有価証券報告書などに掲載しています。

リスクマネジメント体制

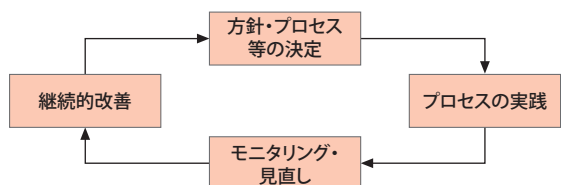
富士通グループは、FUJITSU Wayに基づくリスクマネジメントを実施する委員会として、経営会議直属の「リスク管理委員会」を設置しています。

リスク管理委員会は、国内外の富士通の各ビジネスグループおよび各グループ会社にリスク管理推進責任者を配置し、相互に連携を図りながら、潜在リスクの発生予防と顕在化したリスクへの対応の両側面から、富士通グループ全体でリスクマネジメントを実施する体制を構築しています。



リスクマネジメントのフレームワーク

リスク管理委員会は、国内外の富士通の各ビジネスグループおよび各グループ会社におけるリスクマネジメントの状況を把握し、方針、プロセスなどを決定し、実践するとともに、継続的な改善を行っています。具体的には、リスク管理規程、リスク管理ガイドラインを定め、実践するとともに、それらを定期的に見直し、改善しています。

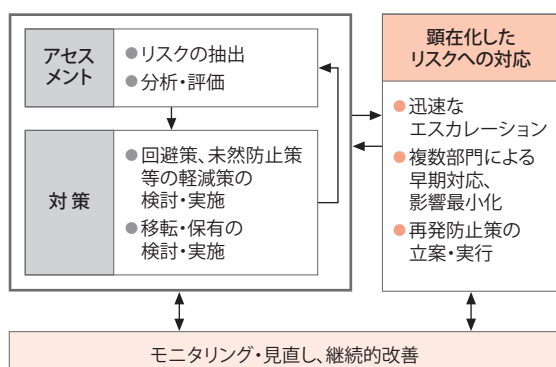


リスクマネジメントのプロセス

リスク管理委員会は、定期的にリスク管理推進責任者と連携を図りながら、事業活動に伴うリスクの抽出・分析・評価を行い、主なリスクに対する回避・軽減・移転・保有などの対策内容を確認し、対策の策定、見直しなどを実施するとともに、重大なリスクの状況について経営会議に報告しています。

また、さまざまな対策の実行にも関わらず、製品やサービスのトラブルや情報セキュリティ事故が発生するなどリスクが顕在化した場合は、各担当部門がリスク管理委員会に報告し、重大なリスクは必要に応じて経営会議や取締役会に随時報告されます。リスク管理委員会は、現場や各関連部門などと連携し、対策本部を設置するなど、適切な対応によって問題の早期解決を図るとともに、原因究明に努め、再発防止策を立案・実行します。

リスク管理委員会は、これらの各プロセスについても、実行状況を確認し、随時改善を図っています。



事業継続マネジメント

近年、地震や大規模な水害などの自然災害や事件・事故、新型インフルエンザ等の感染症の流行など、経済・社会活動の継続を脅かす不測のリスクが増大しています。

富士通グループは、これらのリスク発生時にもお客様が必要とする高性能・高品質の製品やサービスを安定的に供給するために、事業継続計画(BCP: Business Continuity Plan)を策定するなど、事業継続マネジメントの整備に取り組んでいます。

また、お取引先様に協力をいただき、各社の事業継続計画策定への取り組み状況の調査や、当社の取り組みを踏まえたお取引先様向け事業継続計画策定の啓発セミナーの開催など、サプライチェーンの継続性向上に取り組んでいます。

新型インフルエンザ対策

富士通グループは、2009年4月の新型インフルエンザA(H1N1)の発生後、直ちに緊急中央対策本部を立ち上げ、「生命の安全確保」「感染拡大の封じ込め」「事業継続」の3つを柱とした新型インフルエンザ対策を講じました。具体的には、世界保健機関(WHO)の発表する警戒水準や国内外での発生状況に即して各種施策を決定し、社員および家族に周知徹底を図るとともに、日常からの予防対策や備え、発生時の対応プロセスを示した「新型インフルエンザ対策基本行動計画」を策定しました。また、富士通の各ビジネスグループおよび各グループ会社では、蔓延時や強毒性の新型インフルエンザが発生した際にも社会インフラ事業の継続やお客様の事業継続に貢献するため、「新型インフルエンザ対応事業継続行動計画(BCP)」を策定しました。

全社防災

富士通グループでは、大規模な災害の発生を想定した全社防災組織を編成しています。また、人的・物的被害を最小限に留めるために、日頃から各事業所において防災検証(点検)や災害模擬演習を実施しています。

1995年からは、防災の日に合わせて全国一斉防災訓練を実施しています。2009年度は、四国・関西・東海地区に広域地震(紀伊半島沖を震源とする震度6強)が発生したことを想定し、各事業所の被害状況の確認や社員の安否確認などの初動対応訓練を実施しました。さらに、事業継続計画に則り、業務を再開する訓練や被災したお客様のシステムを復旧する訓練を行いました。

リスクマネジメント教育の実施

富士通は、リスクを未然に防ぎ、また万一リスクが発生した場合でも被害の拡散・拡大を最小限に留めるよう、リスクマネジメントの重要性や具体的な取り組みを社員に教える体系的な教育カリキュラムを整備しています。階層別教育では、富士通および国内グループ会社の全マネジメント層を対象にしたリスクマネジメント教育を実施しています。

2009年度は、富士通グループの全社員(派遣社員含む)向けに新型インフルエンザの基本的な対応やその考え方をまとめた小冊子を配布しました。また、情報セキュリティや環境問題、自然災害に関する研修も適宜開催しています。